

研究紀要第29号

# 子どもと共に創る生活

—子どもがみつけていく遊びと発達に応じて構成していく環境—

1994

島根大学教育学部附属幼稚園



## は じ め に

夢中になって遊んでいる子どもは、何ものからも開放され、自由に伸びやかです。そして屈託のない表情は輝き、自発性に溢れています。又何かを想像し、それになりきっている顔つきは、喜びと楽しさに満ちています。正にここに“子どもの世界”が展開されています。説明するまでもなく、ここでこそ子ども一人ひとりの個性が養われ、創造性が培われるわけですが、一方他律的、画一的な時間に生きざるを得ない我々大人達は、こうした貴重な子どもの世界を垣間見るにつけ、反省させられます。

高度に発達した科学、技術大国、経済大国といわれる先進諸国は、それぞれに諸々の問題をかかえ、困惑し、悩みが絶えませんが、我が国を含め共通する課題の一つが教育問題にあることは衆目の一致するところであります。現代は、人間形成に於ける根幹が問われているといっても過言ではありません。こうした時代に於いては、幼児教育の時点にまで遡り、本質的な発想の転換が求められることも又当然であります。

幼児期の人間形成に於いて、“遊びの中での経験的学習”がいかに重要であるかということへの気付きと共に、幼稚園教育の永遠の課題であることも広く認識され始めました。本園では、それを主題とする研究が一貫して継続されています。

保育者と子ども、又子ども同士の毎日の出会い、触れ合いは、その都度新しい葛藤を生みまします。即ち、毎日無数のドラマが展開されるわけです。保育者はそうした子どもの実生活を克明に観察し、記録をとり、専門家を交えて分析し、検討してまいりました。保育の素人の私には見えない、又感じられない子どもの言動をこと細かく活写し、それを互いに分析していく作業は、実に大変です。経験豊かな保育者は、各々独自の保育センスを確立していますが、教育現場での研究と実践では、統一された視点や普遍的理論、見解などはあり得ません。日々変化する子ども、又一人ひとりの個性、体力、能力、環境が違い、成長段階も様々。正に未知なる子どもの世界の探究は、保育の経験を積みばそれだけ不安も増えるものと考えられます。子どもを主題とする保育研究は、丁度演奏家が演奏するのと似ており、一抹の不安と共に、毎日新しい発見の喜びが得られます。ここに研究発表の意義があります。発表することは、思いもかけない発想や示唆を得られる貴重な機会でもあります。皆様のご意見、ご批評をお願いいたします。

平成6年11月

島根大学教育学部附属幼稚園長

知 念 辰 朗

# 目 次

## 子どもと共に創る生活 子どもがみつけていく遊びと発達に応じて構成していく環境

### はじめに

### 総 論

I	研究主題について	1
II	平成3年度～4年度の研究の概要	3
III	本年度副主題「子どもがみつけていく遊びと発達に応じて構成していく環境」 設定の基盤と追究の方向	3
	1. 研究のねらいと視点	4
	2. 研究の方法	5
IV	平成5年度～6年度の研究を通して注視していること	5
	1. 子ども同士が共有し、相互作用する姿	5
	2. 遊びを共有しようとする子どもの願いの本来性	7
	3. 共有する場と空間の中で培われていったこと	9
	4. めあてを共有することは一人ひとりの存在感を確かめること	12
	5. 子どもの主体性と保育者の主体性の相互作用としての「環境の構成」	14
	(1) 共有感のもてる場の構成	15
	(2) 子どもの願いや動きに応じて構成していく環境	17
	(3) 保育者の願いを表わす環境の構成	19
V	3年課程の教育課程	22

文責 野津道代

### 各 論

1.	3歳児が展開していく生活を支えていく環境の構成	野津 道代	29
2.	友達や保育者とのかかわりの中で表されるその子らしさ	星野 和美	74
3.	保育者の願いを表わす環境の構成の一考察	坂本千賀子	91
4.	一人ひとりの意識の違いに応じる援助の在り方を求めて	森山 純子	112

研 究 同 人

園 長	知 念 辰 朗
前副園長	寺 本 和 子
現副園長	中 路 博 孝
研修主任	野 津 道 代
教 諭	森 山 純 子
"	星 野 和 美
"	坂 本 千 賀 子
"	青 木 規 子
前 講 師	上 田 光 江
講 師	廣 江 嘉 子